一級建築士設計製図試験合格への道

Ver.20150110

学科製図.com

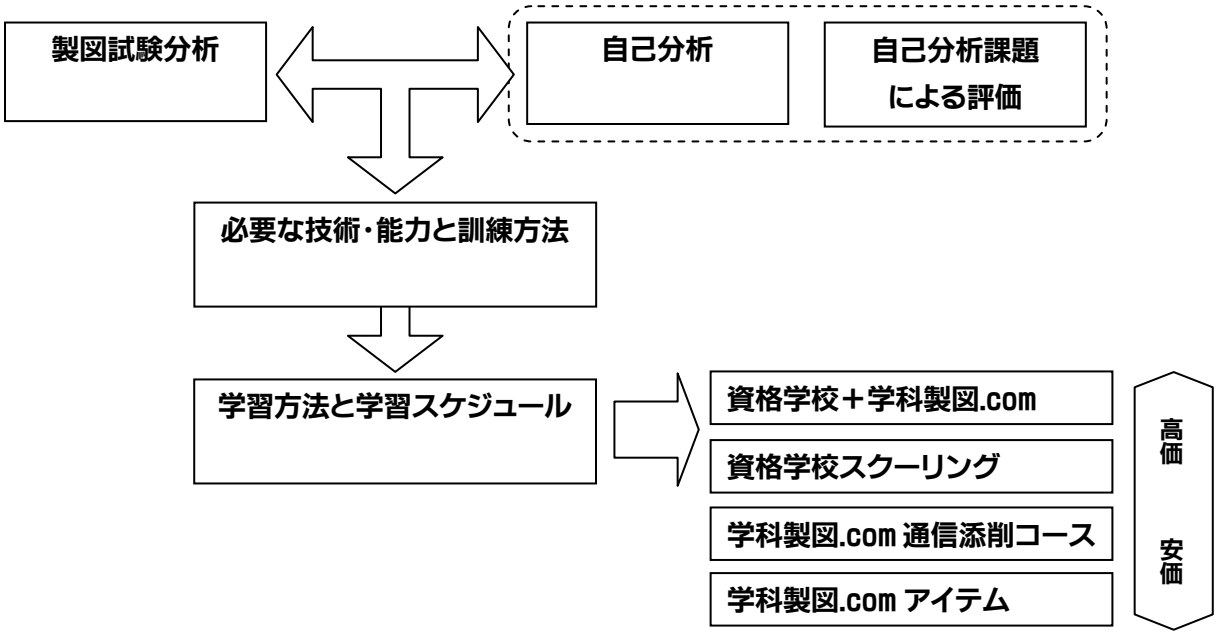
■本資料の使い方

この「一級建築士設計製図試験合格への道」は、学科製図.com が 15 年間積み上げてきた内容をざっくりまとめた資料です。「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」（孫子から引用）といいますが、一級建築士設計製図試験においてもやはり同様に、試験を分析し、さらに自身を分析することで、合格に到達するといえます。

学科製図.com では、製図試験を分析し、それに伴い、自己分析指標を独自策定し、不合格要因の特定、それを訓練するための方法等を説明するために、本資料を作成しました。

■本資料の全体構成

本資料では、下記の順で製図試験に合格するための道筋を解説しています。



■試みる存在として、常に「強く」あること。

この製図試験に合格するために必要なことは、製図試験よりもあなたの知識や存在を大きくすることです。あなたが、この製図試験よりも「強く」なること、そのために様々な学習や訓練を試みる存在となることが重要だと考えています。

資格学校通りにやっていれば、学科製図.com のいうことを信じていれば合格できるだろうというのは、社会人受験の姿勢ではありません。既にあなたは、学科試験を突破し（もしくは突破するだけの位置にいて）、資格取得後は、その能力でモノに形を与える側の一員となるのです。モノを作るという作業＝建築をするという作業は、常に「集めて、分類し、使える形にして、構築していく」作業であり、常に判断と選択の連続です。その最初で最後の演習課題がこの「一級建築士設計製図試験」だと位置付けています。設計力のない方は、この試験を通じて「強く」なってください。設計力のある方は、この試験にそれを活かす想像力を働かせてください。そういうトライを繰り返すうちに、臨界点を迎え、合格できる存在に生まれ変わることができます。

学科製図.com はそのためにできうる全てのことをサポートしたいと考えています。

■製図試験分析

一級建築士設計製図試験とは「一級建築士たりえる能力を有する者」を選考する試験です。そのための目安が「採点のポイント」「標準解答例」として公開されています。(以下 JAEIC 平成 25 年度版より)

採点のポイント(一部学科製図.com で省略)
(1)空間構成
①建築物の配置計画 ②ゾーニング・動線計画 ③要求室等の計画 ④建築物の立体構成等
(2)意匠・建築計画
①要求室の機能性・快適性等 ②図面表現等
(3)構造計画
①構造種別、架構形式及びスパン割り等の計画 ②梁伏図及び部材の断面寸法等
(4)設備計画
①空調方式、空調機の設置位置及び吹出口・吸込口の計画
②建築物の省エネルギーの計画 ③受変電設備、空調室外機及び給湯・ろ過設備の計画
(5)設計条件・要求図面等に対する重大な不適合
①未完 ②地上2階建てでないもの ③図面相互の重大な不整合(上下階の不整合、階段の欠落等)
④面積範囲外 ⑤次の要求室・施設等欠落 ⑥その他設計条件を著しく逸脱しているもの

しかし、採点基準は一切公開されておらず、何をもって「たりえる」というのかは不明です。そこで学科製図.com では、平成 21 年度に変更された新試験制度を分析し、この「たりえる」を「6 時間 30 分で基本計画案を作成する能力」と定義づけました。つまり、施設の用途、コンセプト、敷地、床面積が与えられれば、6 時間 30 分で、設計主旨と 1/200 の計画案が作成できる能力です。

多くの受験生、そして資格学校ですら、「与えられた問題文から解答を作ること」を最終目標にしている傾向がありますが、その点を目標にしてしまうと、問題文が与えられないと解答できない設計者になってしまいかねません。これは試験巧者ですが設計者ではありません。JAEIC としては恐らく「試験巧者であっても設計のできない受験生は合格させたくない」のではないかと思われます。ですので、本来は、「施設の用途、コンセプト、敷地、床面積」だけを与えて試験すればいいと思われるのですが、そうすると試験での評価は定性的な評価にならざるを得ないため、試験として成立しにくい。そこで問題文形式である程度の枠を設定して、試験としていると位置付けました。

もちろん、問題文で構成されている試験である以上、問題文で設定している動線や配置、面積を間違えると単に減点されますし、それらを満足させなければなりません。その点は試験という手段を成立させているものであり、「与えられた問題文から解答を作ること」を求めているわけですが、本質的に問いたいのは、「6 時間 30 分で基本計画案を作成する能力」です。

それは、資格学校がやっているようなパズルを解く問題ではありません。解かねばならないのは、パズルではなく、建築計画そのものなのです。ですので問題文はいたずらにトリッキーにする必要はなく、近年の出題は、資格学校の問題文とは異なり、シンプルでかつ自由裁量権の大きな出題となっています。

何度でも繰り返しますが、求められているのは「6 時間 30 分で基本計画案を作成する能力」なのです。そうは言っても漠然としているため、上記の「採点のポイント」を含め、基礎・読解・計画・表現・管理の 5 カテゴリ 11 項目の技術・能力が必要不可欠であるとしました(次ページ参照)。

学科製図.com では、ここにフォーカスして、課題作成、教材作成を行ってまいります。

■自己分析

さて「6 時間 30 分で基本計画案を作成する能力」とは、「施設の用途、コンセプト、敷地、床面積」だけで基本計画案をまとめ上げられる能力です。平成 26 年度でいえば、「温浴施設のある道の駅」「渓流沿い親水公園横にある敷地を活かす」「1800m2～2200m2 の 2 階建て」これだけの条件で 6 時間 30 分以内に図面と要点をまとめ上げる能力です。前述したようにそれでは試験にならないので、問題文でもう少し詳細の条件をつけ、それには過不足なく満足するようにすることで採点するようにしているだけと考えてください。

あなたは、数課題から数十課題をこなして本試験に臨んだわけですが不合格であったため本稿を読んでいるか、または初受験かと思われます。数課題をこなしてみて、もしくは本試験を体験して、自覚している自己分析できている現象をチェックしてみてください。

自己チェックに自信のない方は、学科製図.com 自己分析課題を解いて事務局までお送りください。

一級建築士設計製図試験自己分析シート by 学科製図.com

必要な学習項目 / 自覚している現象			自己分析	基礎			読解		計画		表現		管理	
				B1 建築計画	B2 構造計画	B3 設備計画	R1 問題読解	R2 問題分析	Z ゾーン	P プラン	S 作文力	D 作図力	T 時間管理	C チェック
読解ができない・ミスが多い				○	○	○	○	◎						◎
読解に時間がかかる				○			◎	◎					◎	
動線・ゾーニングができない				◎					◎					
プランは時間をかけてもできない				◎					○	◎				
プランは時間が足りない				○				◎	◎	◎			◎	
プランにヌケが多い							◎	◎						◎
構造でわからない部分がある					◎						◎	◎		
設備でわからない部分がある						◎					◎	◎		
作図に自信がない				○								◎		
要点の記述に自信がない				○			◎		○	○	◎			
時間配分が悪くチェック時間がない													◎	◎
試験当日不安で実力が出せない													◎	◎
学習の仕方がわかってない				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
該当教材	コース	通信添削課題・模試					◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		Web セミナー		◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○			○
		わかるエスキース・テキスト		◎	○	○	◎	◎	◎	◎				○
		書ける作文テキスト		◎							◎			
	OP 鉄腕作図テキスト			○	○	◎						◎		
	OP 講習会				○	○	◎	◎	◎	◎				○
	OP はオプション													

B1 建築計画（基礎）

いわゆる建築的常識と言われる部分。機能的に建築計画を理解できているかを問うています。

□採点のポイント

（1）空間構成
　①建築物の配置計画　②ゾーニング・動線計画　③要求室等の計画　④建築物の立体構成等
（2）意匠・建築計画
　①要求室の機能性・快適性等　（＋建築法規）

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

- □ 建築物を配置する場合、道路、隣地、敷地形状等から判断することができる
- □ ゾーニングはできているが、動線計画ができていない計画がどのようなものかわかる
- □ 要求室で柱を入れても差し支えない室と入れてはいけない室がわかる
- □ 吹抜けはどこに設けるべきか、なぜ設けるべきか理解できる
- □ 建築基準法・バリアフリー法の適用範囲を理解している
- □ 無窓居室はなぜ作らない方がよいのか、計画的にも法規的にも理解できている
- □ 断面線と見掛線の描き分けができる

□できてない方の傾向

・意匠設計をあまりしたことがない。
・建築物を建築計画学的に見学したことがない。
・そもそも設計することが苦手だと思っている。
・計画に自信がないので資格学校の課題を猛勉強している。

□学習方法

建築物を建築計画学的に見学することが最も建築計画への理解を深める方法です。といってもそんなにヘビーな学習方法ではありません。建築物を見学する際に、①建築物へのアプローチ（メイン・サブ）　②フロントデザイン（広場や駐車場）　③共用部（吹抜含む）と 2 階へのコアの位置　④管理部門位置　⑤周辺環境に対する関係性　という 5 つの視点を持つこと、そして、図面と建築空間を一致させること（図面を観て建築の中を歩き、建築を観て図面をイメージする）を練習することです。
できれば、建築面積が 1000m2 程度の公共建築（市役所、市民会館、図書館、美術館）などがよいでしょう。
学科製図.com では、今年これらをレポートする「建築見学特派員」を公募します。
詳しくは、http://ameblo.jp/roadto1kyu/entry-11973264501.html　まで。

□学科製図.com の教材

h27web セミナー（2月～3月）の前半部分でこれらの解説をしています。
あと一般的な建築計画学の勉強は学科試験時に行っているのですが、それを補完するテキストとしては、
「図説やさしい建築計画」出版社: 学芸出版社刊 ISBN-13: 978-4761525224　をおすすめしています。
加えて、学習方法に書きましたが、前半戦の時期に建築見学特派員をやってみることをおすすめします。

B2 構造計画（基本）

構造的な常識レベルを問うていますが、実務レベルとは異なるため、逆に実務経験者には意味不明な部分があります。6 時間 30 分内で建築計画から構造設備まで問わねばならない制約の方が、構造計画そのものを問うよりも大きいと思っていただくしかないです。

□採点のポイント

（3）構造計画
①構造種別、架構形式及びスパン割り等の計画　②梁伏図及び部材の断面寸法等

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□ラーメン構造の長所と短所が説明できる

□梁伏図で RC 袖壁と RC 腰壁、軽量鉄骨の間仕切り壁の表現がわかる

□一次部材、二次部材の標準的な寸法がわかる

□できてない方の傾向

・単に構造への苦手意識が高い　・構造図一式を観たことがない　・実は何を描いているのかわかっていない

□学習方法

・これは理解して描いて覚えることだけです。

□学科製図.com の教材

・構造テキスト（通信添削生用）があります。

B3 設備計画（基本）

□採点のポイント

（4）設備計画
①空調方式、空調機の設置位置及び吹出口・吸込口の計画
②建築物の省エネルギーの計画　③受変電設備、空調室外機及び給湯・ろ過設備の計画

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□大空間や高天井での空調の選択方法、外気・給気・還気・排気が理解できている

□省エネルギー計画と建築環境負荷低減の違いがわかっている

□キュービクル、受水槽、空調機、室外機のおおよその大きさとメンテナンスクリアランスがわかっている

□できてない方の傾向

・製図試験資料以外のカタログや実物を観たことがない

・設備への苦手意識が高い

□学習方法

・ひとつひとつについて、自分自身で調べてみることはとても重要です。

・学科試験時に学習したことが役立つので、学科試験資料を振り返ること。

□学科製図.com の教材

設備テキスト（通信添削用）があります。

R1 問題読解（読解力）

試験当日配布される問題文は、「コンセプト」「図面仕様」「外部アプローチ」「最大建築面積」「内部動線」「要求室を含む各部門面積」からできています。それを効率よく、かつ正確に、読解することが求められています。これは単純に練習で身につく技術です。

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□施設全体のコンセプトを理解して解いている
□図面仕様について読み方は安定している
□敷地条件から外部アプローチを読み解くことができる
□外構条件を読解することで最大建築面積が求められる
□基本的な動線図（機能図）を描くことができる
□問題文に指摘された動線をくまなくちぇっくしながら読むことができる
□要求室で適宜の面積を計算することができる
□廊下率（目標床面積／全室面積）を読むことができる
□1 階 2 階の振り分け方を持っている
□読解方法はいつも同じである

□できてない方の傾向

・重要な点だけラインマーカーを引いている読解をしている
・何が重要かもわからないで読解している
・毎回の読解方法が異なる／安定していない
・読み飛ばしや読解ミスが多い

□学習方法

学科製図.com では、読解は常に書き出すことをおすすめしています。この方法をやることで何を読んで、何を読んでないかがはっきりするからです。この書き出す方法は時間がかかるため、資格学校はかなり嫌います。加えて、読解のエスキーストレースも非常に勉強になります。是非トライすることをおすすめします。

□学科製図.com の教材

「エスキースアプローチ」「わかるエスキース」「わかるエスキース２０１２」等のエスキーステキストは、全てこの「読解の書き出し」を行うよう指導したテキストです。また、平成 27 年度用の読解手順については、「平成 27 年度版エスキース読本」で指導いたします。

また通信添削コースの各課題、h27web セミナーもこのあたりはかなりしつこく学習します。

R2 問題分析（読解力）

問題文を読解すると「コンセプト」「図面仕様」「外部アプローチ」「最大建築面積」「内部動線」「要求室を含む各部門面積」に分けられますが、これらの内容をどう分析し、エスキースに入る前に論点をまとめておくかということが非常に重要になります（これをポイントの抽出と呼んでいます）。多くの受験生はこのプロセスを飛ばしてもプランをまとめることは可能なので、あまりポイントの抽出を行っていない傾向にあります。しかし、それなら読解なんぞするのは時間の無駄というモノ。分析のために読解してきたことをお忘れなく。学科製図.com では、この部分を別名「議事録」とも呼んでいます。問題文読解の議事録を作る。これが問題分析の重要な点です。

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。
　□読解からどの点がこの問題文のポイントか判断できる
　□読解から重要な数値がわかる
　□読解からあらかじめ用意していたプランの方向性がわかる
　□読解から何が解決できてなくて、何が難しいかおおよそ予測が付けられる

□できてない方の傾向
・そもそも読解を書き出していない。そのため分析はできない
・読解には時間をかけているため、読解をまとめる時間が取れない
・読解をまとめるとか、プランの方針を立てるという意味がわからない
・そもそもエスキースは読解ができていないと何をしているのかわからないということがわかっていない

□学習方法
問題文という施主（クライアント）がいて、その方と打合せという名の読解をやり、その読解を議事録としてまとめることをやるのが読解分析の中心的な内容です。ですから読解ができてないと、議事録自体も意味がないし、意味のない議事録は作る必要もない、ということになります。読解と計画をつなぐ重要なポイントだということを理解すれば、この部分は必ずやるようになります。大切なのは「わかる」ことです。そのためにはエスキースのトレースが最も重要な学習方法だと言えます。

□学科製図.com の教材
「わかるエスキース」「わかるエスキース２０１２」等のエスキーステキストは、この「ポイントの抽出」を行うよう指導しているテキストです。
また通信添削コースの各課題、h27web セミナーもこのあたりはかなりしつこく学習します。

Z ゾーニング（計画力）

学科製図.com では、ゾーニングとプランニングは技術が異なるためふたつに分けています。お弁当を使って説明するとゾーニングはおかずの枠決め、プランニングは枠の中に詰め込む作業になります。当然、詰め込みながら枠を決めていては、お弁当詰めはぐちゃぐちゃになります。

□採点のポイント

（1）空間構成
①建築物の配置計画 ②ゾーニング・動線計画 ④建築物の立体構成等

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。
□ゾーニングでは、室の配置ではなく、部門の配置を中心に行うことを知っている
□ゾーニングを決定する要因は、部門内ではなく部門外とつながる動線である
□部門外につながる動線にはアプローチ計画も含まれる
□ゾーニングは、先の読解分析に基づく方針から判断するものである
□ざっくりゾーニングは 5 分で 2 案程度を目標に計画できる
□立体構成を考えながらコアゾーニング（階段・EV）ができる
□大空間、コア、吹抜を考えてコアゾーニングできる
□学科製図.com が唱えるゾーニングとプランニングの違いがわかる

□できてない方の傾向
・ゾーニングがそのままプランニングになっている
・1 階プランをしてから 2 階のプランをやっている
・ゾーニングとプランニングをそもそも分けていない
・ポイントの抽出やプランへの仮説なしになんとなくエスキースしている
・そもそも仮説を立てずにプランニングに入っているしゾーニングはしない
・コアの位置が悪い

□学習方法
まず、動線図を使って、ゾーニング図が描くことです。恐らくひとつのゾーニング図は 1 分程度で描けると思われます。考え得るゾーニング図 3 案くらいを 5 分で描けるようになることを目標にしましょう。
次にそのゾーニング図に、コア（階段・EV）をゾーニングします。このプロセスを学科製図.com では、コアゾーニングと呼んでいますが、吹抜、大空間等を避けて、メインコアとサブコアの配置をおおよそゾーニングします。
これが 2～3 分というところでしょうか。大体 5～8 分程度で、この建築物の骨格としてのゾーニングを決定します。
また図面の色塗りも非常に効果的です。

□学科製図.com の教材
「わかるエスキース」「わかるエスキース２０１２」等のエスキーステキストは、この「ゾーニング」を徹底的に行うよう指導しているテキストです。次ページのプランニングと考えを分けることが大きなコツです。
また通信添削コースの各課題、h27web セミナーもこのあたりはかなりしつこく学習します。

P プランニング（計画力）

ざっくりゾーニングされた各部門内に、共用部＋メインコア＋サブコアを中心とした動線の骨格ができている状態に対して、要求室をそれぞれの部門内に配置し、建築計画として整える作業を「プランニング」と呼んでいます。前述したようにお弁当の仕切りの中におかずを整頓させて並べる作業です。
学科製図.com ではお弁当を仕切る力とその中におかずを並べる力は全く別の技術だと考えています。

□採点のポイント

（1）空間構成
　③要求室等の計画
（2）意匠・建築計画
　①要求室の機能性・快適性等

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。
- □廊下を含む共用部をまっすぐ計画することができる
- □10m2 から 400m2 まで要求室のタイプを持っている
- □廊下率をイメージしながらプランすることができる
- □他人の図面を修正することを練習に取り入れている
- □1/200 で A4 サイズのパーツ集を作る意味を理解している
- □家具・什器のレイアウトができる

□できてない方の傾向
・パーツ練習をしていない
・共用部がガタガタできれいに通っていない
・毎回考え、毎回異なるプランを描こうとする
・やたら時間がかかる
・プランニングが苦手だと思っている

□学習方法
平面図一式を計画するのではなく、まずパーツ練習をすることです。2x2コマ、2x4コマ程度を 1 分で計画するようなイメージです。これを徹底的にやることを学科製図.com では推奨しています。他人の図面を修正することや答案例をトレースすることも効果的です。とにかく「手で考えること」が重要です。また解答例の色塗りも効果的な学習方法です。

□学科製図.com の教材
パーツに関しては、計画パーツ集「homa-note」をベースにしています。
ただ、コツとか考え方というよりは、英単語をひたすら覚えるイメージです。ですのでテキストを読んだり、問題を解くよりも、ひたすらパーツを覚える、覚えたらプランに合わせて修正変形する力を付けることです。

C 作文力（表現力）

平成 21 年度から本格導入された「計画の要点」。しかし、資格学校の講師でも国語の教師ではなく、意外と教えにくいようで、余り手が回っていないのが現状です。それほど難しいレベルを要求されてはいませんが、少なくとも、計画した建築物について 10 分でも 20 分でも説明できる知識を持つこと、そして要求されている問いを的確に捉えること、その上で、作文できること。この 3 つが問われています。

□採点のポイント

（1）空間構成
①建築物の配置計画　②ゾーニング・動線計画　③要求室等の計画　④建築物の立体構成等
（2）意匠・建築計画
①要求室の機能性・快適性等　②図面表現等
（3）構造計画
①構造種別、架構形式及びスパン割り等の計画　②梁伏図及び部材の断面寸法等
（4）設備計画
①空調方式、空調機の設置位置及び吹出口・吸込口の計画
②建築物の省エネルギーの計画　③受変電設備、空調室外機及び給湯・ろ過設備の計画

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□アプローチとゾーニングと動線計画の3つについて説明できる
□建築物の意匠の説明ができる
□広場などの屋外スペースの役割を説明できる
□周辺環境への配慮について説明できる
□ラーメン構造、耐力壁付ラーメン構造、壁構造の利点と欠点が説明できる
□単一ダクト方式と床置きダクト接続型の利点と欠点が説明できる
□キュービクル、空調機、受水槽の位置の理由が説明できる

□できてない方の傾向

・日本語の書式がバラバラで読みにくい
・文字が丁寧でないため読めない（汚くても丁寧に書くこと）
・主語述語が呼応していない、修飾語がどこに掛かっているのかわかりづらい
・論理的整合性がない、説明として成立していない

□学習方法

①説明できるだけの基礎知識は必ず必要（知識にないことは書けない）
②問題文の問いに応じた解答をする練習（問題文が読めてなければ書けない）
③キーワード→短文→長文（80 文字程度まで）という練習を繰り返すこと（読んで知識を使って表現）

□学科製図.com の教材

書ける作文テキスト（4 月末完成予定）、及び通信添削コースの各課題、h27web セミナーでも触れています。

D 作図力（表現力）

作図は、描かねばならないものが全て描いてあり、特に必要のないものはあまり描かないようにして、わかりやすい図面をめざすことです。加えて、描き残ししないようにチェックしながら描く能力もこの作図力に加えるべき力です。

□採点のポイント

（2）意匠・建築計画
②図面表現等

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□断面線と見え掛かり線を描き分けることができる
□毎回の描き順及び大体の時間は決まっている
□文字・数字については読みやすさに心がけている
□梁伏図は、梁の点線表記と実線表記の意味を理解している
□実践、点線と一点鎖線とを描き分ける基準を理解している
□チェックしながら確認しながら描く方法を理解している

□できてない方の傾向

・線の太さ・濃さの意味がわかっていない
・図面が汚れている
・文字、数字が読めないくらい汚い
・描き間違い、描きモレが多い

□学習方法

・図面は漫然と描いていてはダメです。いつまで経っても上達しません。図面は線と文字でできているので、きれいで意味のはっきりしている線を描けるようになること、図面用として耐えうる文字を書くこと、これは単に練習です。練習している方は描けるようになりますし、練習していない方はいつまでも描けません。
ただし、どのような反復練習をすべきかについてはいくつかコツがありますので、講習会や教材で解説しています。

□学科製図.com の教材

・作図講習会を5月と8月に東京・大阪で行っていますが、ご要望にあわせて他都市での講習会でも行います。
・鉄腕作図テキスト＋DVD　がおすすめです。ただ現在、新しいバージョンに移行中です。旧版についてはかなりリーズナブルな価格としています。

T 時間管理（管理能力）

製図試験に限らず、試験というモノは、出題範囲と試験時間があり、その制限内での能力シミュレーションという側面を持っています。学科製図.com では 10 時間まで使えるタイマーを販売していますが、本試験当日のみならず、時間管理ができるようになることは、この試験に合格する上で必須の技術といえます。
時間管理には、本試験当日での管理と本試験までの学習する上での管理の2つに大別できます。

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。
◇日々の学習での時間管理
□6 時間 30 分の試験だが、普段の学習は小間切れの時間を活用するよう工夫できる
□短い時間でできる学習方法を持っている
◇本試験当日対策用の時間管理
□読解、エスキースする手順は固定しており、平均のラップタイムイメージを持っている
□作図の描き順が固定しており、平均のラップタイムのイメージを持っている
□作図方法について、急ぐ場合と時間がある場合のバージョンを持っている

□できてない方の傾向
・6 時間 30 分の試験なので、まとまった時間がないと勉強できない
・読解、エスキース、要点、作図に関して、平均のラップタイムを計ったことがない
・そもそも時間管理に興味がない

□学習方法
◇日々の学習での時間管理
・まとまってやるべき練習と小間切れの時間でやってよい練習に分けて、総学習時間を確保することです。
・また、週間リズムをつけて、学習ピークを試験前にもっていく管理をしていくこと＝集中力を高める上で大切です。
◇本試験当日対策用の時間管理
・当日は、様々なミスが発生する可能性があります。そのミスに対応するには、事前に様々な時間の使い方をイメージしておくことが必要です。また、そのために、各プロセスについての平均的なラップタイムを持っておくことが望ましいです。

□学科製図.com の教材
「わかるエスキース」「わかるエスキース2012」等のエスキーステキストは、プロセスを細分化して、一つ一つをステップ化することで、ラップタイムを把握し、時間管理をすることについて解説しています。ただ、具体的には、標準的と思われる課題を解いて、それをモノサシに利用し、何度もそのステップごとに時間を計測し、自分自身なりのラップタイムを積み上げていくことが不可欠です。それらについては、自己分析課題、通信添削コースの各課題を利用して下さい。また、エスキースのステップについては、h27web セミナーで徹底的に行います。

C チェック力（管理能力）

一級建築士設計製図試験は、全く手も足も出ないような出題ではありません。試験で不合格になる要因のほとんどは、読み間違い、計算間違い、などのイージーミスや、それによる手戻り、さらに時間の使い方ミスなどによるものが多いのです。しかし、これから人の生命と財産を扱う建築士となるあなたにとっては、やってはならないミスがこういった基本的なミスなのです。これらは実はそう簡単に直りません。今までの生活歴や感性が影響するからです。その上で、合格を確実なものにしていくためには、いかにしてチェックする能力を高めるのかにあります。

□採点のポイント

（1）空間構成 （2）意匠・建築計画 （3）構造計画 （4）設備計画
（5）設計条件・要求図面等に対する重大な不適合
①未完 ②地上2階建てでないもの ③図面相互の重大な不整合（上下階の不整合、階段の欠落等）
④面積範囲外 ⑤次の要求室・施設等欠落 ⑥その他設計条件を著しく逸脱しているもの

□下記の設問が答えられるかどうかで理解できているかどうかの判断ができます。

□読解でミスがないような読み方を構築している
□エスキースでのチェック項目を持っている
□ミスを見つけられる要点の書き順に心がけている
□ミスを見つけられる図面の描き方に心がけている
□今までのミスを反映させたチェック項目を持っている

□できてない方の傾向

・以前やってしまったミスを何度も繰り返している
・課題の解きっぱなしが多い
・ミスをしたポイントの原因を理解していない
・復習中心型学習をしていない
・本試験当日に弱い傾向にある（メンタルが弱い）

□学習方法

徹底した復習中心の学習方法をとることです。ミスした項目を確認し、その原因を特定し、それが起こらないようにチェックすることを解法プロセスの中に盛り込むことです。その積み上げでしかミスはなくなりません。
課題を解いて、添削を受け、そのミスを掘り下げることです。加えて、他人の図面を観ても同様のことを行い、少しでも経験値を上げておく意識が必要です。
また、メンタルを鍛え、集中力を付けることも試験対策としては重要になります。

□学科製図.com の教材

自己分析課題、通信添削コースを受講しつつ、できない→できるノートを作成し、項目をひたすらチェックしては修正していくことをおすすめします。
また、メンタル面については、学科製図.com のメールマガジンをご活用ください。

■学習スケジュールと教材

さて、製図試験分析、及び自己分析のためのチェック及び解説、それに伴う学習方法と教材について、まとめましたが、これらを実際どのようなスケジュールで行うのか説明しておきましょう。製図試験受験資格保持者においては、今年の学科試験までが時間的なアドバンテージであり、この間にどれだけ基本を身につけておけるかが合格への扉となります。学科製図.com では、下記の通りの学習スケジュールをおすすめしています。

通期日程 / 内容	前半戦			後半戦			備考
	1月	2-3月	4-7月	8月	9月	10月	
自己分析課題	■						個別申込可
エスキース web セミナー		■					個別申込可
過去問題徹底分析添削			○ ○ ○				個別申込可
前半戦シンクロ二模試			●				個別申込可
H27 課題学習				■			
H27 問題添削					■		
模試→本試験						●	

1月自己分析

まず 1 月中に自己分析を行い、学習方針、方向性を立てます。そのために自己分析課題を解いてもらっても良いし、個人面談を受けたい方は時間の許す限りいつでもお話いたします（facetime、電話可）

2-3 月エスキース web セミナー

2 月は読解力、3 月はエスキース力を強化する web でのセミナーを月水金で行います。合格を決めた方の多くは、ここでの気づきがヒントと原動力になっています。

4-7 月過去問題徹底分析添削（全 3 課題）

今年新たに行うものです。過去問題は重要なのですが、製図試験では学科試験ほど重要視されてきませんでした。学科製図.com では、これまでの傾向を分析しつつ、力を付ける上で、過去問題分析とその添削を行うことにしました。ここでは習うより慣れろ、という感覚を重視しています。なお、添削問題として出題する際は、本試験ではなく一部変更します。またメンバーズサイトでのサポートがあります。

前半戦シンクロ二模試

前半戦の最後を模試でまとめます。この時点で、どの課題が出題されても合格できる力量をめざします。

H27 課題学習＋問題添削（後半戦）

後半戦では、エスキース読本を用いた課題学習＋通信添削問題全 4 問＋模試 1 問計 5 課題を予定しています。問題数は 5 問ですが、繰り返し基本を押さえて解くことを重視しています。

■学科製図.com の利用方法

ここで学科製図.com 利用方法をまとめておきます。

□全ての情報は、無料メールマガジンで配信しています。

学科製図.com は、1 本のメールマガジンの配信から始まりました。現在でも学科製図.com の全ての情報は、まぐまぐ、melma!、のメールマガジン（ブログ派の方はアメーバブログ、Facebook 派の方は Facebook ページ）を利用して、無料配信しています。

□コミュニケーション方法

通信添削生とは、mixi ライクな SNS を利用しています。今年からスマホ対応になりました。また、メール及び電話でも対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

□自分自身との戦いを自身のペースで

学科製図.com での主な教材は「通信添削」です。ですので、自宅学習がそのベースとなります。お金をかけてでも学校に行くことでモチベーションを作らねばならないタイプの方や、ご自宅では勉強する環境がない方は、資格学校を検討した方がよいでしょう。一方、主婦や週末資格学校に通えない方、資格学校まで遠方の方、資格学校で繰り返されるカリキュラムでは合格できない方、そして何より自分自身のペースで学習したい方は、学科製図.com の通信添削コースをおすすめします。

□プロセスの解説と共有

学科製図.com の真骨頂は、エスキースプロセスの解説と共有です。またコミュニケーション手段としての SNS が昨年まで使いにくかったのですが、随分改善することができ、スマートフォンを持っておられる方とは、格段にコミュニケーションしやすくなります。

□費用とその効果

費用は、通期講座で資格学校の通信添削の約半額 165,000 円（税込）です。また平成 27 年度試験課題発表後の後半戦だけであれば、85,000 円です。製図試験受験資格保持者の方は、できるだけ前半戦のうちに合格する基礎を固めてしまうことをおすすめしています。

主体的に学べる方は飛躍的に伸びることができます。何かしてくれるだろうと思っている方は残念ながらあまり学習効果は期待できません。そもそももうそう言う時代ではないんです。自ら組み立てて、トライしていくところにこの一級建築士設計製図試験受験の醍醐味と成功のポイントがあります。

平成 27 年 1 月吉日

学科製図.com 主宰　曽根　徹

■通信添削コース費用

通期通信添削コースの費用は以下の通りです。

□平成 27 年度は学科製図.com で学ぶと決めている方

→通期コースでお申し込み下さい。さらに大阪ではスクーリング、東京では協力している zt 塾（スクーリング）があります。

□後半戦は資格学校に行こうと考えているが、基本に自信のない方

→まず基本を身につけ直すためにも、前半戦コースをお申し込み下さい。

□エスキースに自信がないだけの方

→エスキース web セミナーからお申込ください。全 25 回のメール・動画配信セミナーです。

□自己分析をしてもらいたい方

→相対的な自身の位置がわかっていない方は、まず自己分析課題に挑戦してみて下さい。

通信添削コース費用一覧

	内容	費用（税込）	備考
自己分析課題	問題は公開・添削は別途	3,240 円	個別申込可
エスキース web セミナー	原則週 3 回のメール動画配信	25,920 円	個別申込可
過去問題徹底分析添削	全 3 課題＋h21 からの過去問分析	43,200 円	個別申込可
前半戦シンクロニ模試	オリジナル模擬試験	10,800 円	個別申込可
小計		83,160 円	
前半戦通信添削コース	上記全てをセット価格で提供	80,000 円	
後半戦通信添削	テキスト＋5 課題	85,000 円	個別申込可
通期通信添削コース		165,000 円	
通期通信添削コース申込割引 or 過去通信添削生割引		155,000 円	10,000 円引

★セット申込 or 過去に学科製図.com の通信添削生だった方は、10,000 円の割引サービスを行います。
分割支払いも可能です。http://gakkaseizu.com/s/misc/shiharai.html をご参照の上、事務局にお電話いただくか、zone@gakkaseizu.com にご相談ください。

通期通信添削コースに含まれている内容

テキスト群：エスキース読本、構造テキスト、設備テキスト、要点読本
Web サイト：メンバーズサイト、動画配信、web セミナー
課題：平成 21 年～26 年の過去問題＋修正課題（3 課題）＋模試
問題文・用紙・解答例・解説各一式

後半戦全 5 課題（4 課題＋模試）